

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000688		
法人名	社会福祉法人 栄和福祉会		
事業所名	グループホームたのうらそう		
所在地	葦北郡芦北町大字田浦町822-3		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年4月にグループホームたのうらそうを開設し、平成22年4月にグループホームⅡを増設しました。現在18名の方が利用されています。特に設置地の田浦地区のご利用者が多いため、顔見知りの方がおられたり、なじみのある風景の中で生活されているため、安心感のある落ち着いた生活を送っていただけます。また、面会者や、保育園からの訪問、地元の学校からの実習の受け入れも行っており、地域に開かれた施設であります。特別養護老人ホームに併設しているため、新人職員の研修を十分にすることができ、職員の資格取得や研修会にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤務を終え帰宅の準備をする職員に、「また明日来てね～気付いてネ」と送り出す入居者。職員と入居者の仲がとても良い。親子・孫のように互いに寄り合う様子がみられた。共用空間・居室、それぞれに色違いで明るく軽やかなカーテンが使われ、各所に飾られた小花が、気持ち良い住空間を作り出しているホーム。母体法人の特養のすぐ下で、住宅地の一角にあり、ホームを新しい家(自宅)として意識付けられることを願いながら介護サービスが提供されている。また、職員が働きやすい職場であることが介護サービスの充実にも繋がるとして、職員の子育て支援(子ども・家庭優先)や、職員数の充実、仕事としての研修参加など積極的に勧め、理事長がホームをぶらり訪問して意見を聴き、改善可能なことにはすぐ着手するなど、柔軟な対応が行われている事業所。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(GH1)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念を全職員念頭に置いて、ご利用者様がその人らしく生きがいを持って過ごせるよう支援を行っています。		職員用トイレに入ると「家族・尊厳・安心・地域」の5項目からなる理念が目に入る。職員は毎日数回は理念を確認することになり、全員が利用者様を家族として、尊厳を守り支援していくことを基本としている。利用者の笑顔・交わされる会話・寛ぐ姿からも理念が実践に繋がっていることが窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所との交流で踊りの発表会や芋ほりなど来荘の機会がある。また、地元の祭りや運動会を見学に行ったり、季節ごとの花、紅葉、虫などの見学にも出かけている。また、地元の方が多いため、面会者も多く、顔なじみの方の来荘が多い。		地域の保育園からお遊戯発表会があったり、芋掘り交流が行われたり、芦北高校福祉課の研修を受け入れるなど、交流が図られている。高校との交流から新卒で2名の学生が特養へ就職するなどの実績も生まれ、地域のお祭りや運動会では地元住民との馴染みの付き合いもあり、面会・訪問者も多く日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修を全職員受講している。新人職員も今後受講する。		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括・地区会長・民生委員・家族代表・利用者代表・職員で構成されており、苦情解決の研修の報告や町からの情報、他施設の取り組み等の情報を交換している。また、ご利用者の生活や行事を見ていただく機会になっている。		会議には芦北町住民生活課や包括支援センター、区長・民政委員が参加しており、地域の情報交換の場として活用されている。議題は認知症サポーターの研修や高校からの実習、外部評価などについての報告や、ホームでの多様な行事報告が行われており、地域の財産である事業所を、より認識して貰う良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただいている。その際に介護保険に関する疑問点などを質問している。また研修があれば参加している。		行政ならではの、他事業所の優れた取り組み・情報を紹介してもらうなど、ケアサービス向上に役立っている他、制度の変更や疑問にも積極的に応えてもらっている。介護サービスの実態を知って貰う事、家族の係わり方など、密な連絡で状況が伝えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会で毎月研修を行っており、内容を回覧で回して職員に周知している。玄関は夜間以外は開錠しており、外に出られる利用者には職員が付き添っている。ベッド柵の利用者はいない。		2つのユニット、そのどちらの利用者にも拘束を思わせる制限はなく、歌って笑って、お喋りして…自由な行動がみられた。居室には高窓だけでなく、掃出しの大窓もあり、自由に外へ出られる状況であるにも関わらず、利用者は玄関からの外出のみで、職員がそっと付き添って対応している。	
					現在は居室の窓から無断で出て行く利用者様は居られない様だが、今後の状況は分からないので、今一度、窓の対応についてはあり方検討も必要かと思われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会で研修を行っている。日頃から虐待が起こらないように全職員が意識して介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在GH2に成年後見人制度を利用されている方がおられる。相談や不明な点はすぐに連絡を取り、問題解決している。制度について理解している職員は少ないため、勉強の機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、ご家族、またはご本人が納得されるように十分に説明を行っている。不明な点は随時お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外での特別な場は設けていないが、面会時に積極的にかわりを持ち、ご要望があればすぐに検討し対応している。	利用者の家族は、頻繁に来られる方、たまに来られる方があるが、対応を一様にせず、家庭に合わせた対応とし、遠方に在住する家族には、写真に近況報告を添えて伝えられている。家族の来訪時は必ず状況説明を行い、外泊・リハビリ等々希望を聞き取り、やり取りされた情報は必ず、管理者に伝わるシステムになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アセスメントメモのサイズを大きくして書きやすくなったが、活用が途絶えてしまったので再度活用に向けて検討している。小さな気付きは直接職員から上司に伝えて業務に反映させている。	業務日誌、個人記録、日々の記録には利用者の詳細な情報が書き込まれ、遅出・早出・休日明けと、どの勤務状況であっても日々の状況が一目で分かる状況になっており、注意事項や情報の共有化が図られている。管理者・理事長へも直接意見を伝えることが出来る雰囲気、会議・ミーティング以外にも気付いた時すぐ伝えることができる。また、職員は週休2日と、残業をしないで良い勤務状況が確保され、有給休暇も必ず消化できており、働きやすい職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境	現在、全体ミーティング、主任ミーティング、副主任ミーティングを法人内で定期的に行っており、月一回の勉強会も含めて、職員それぞれが自己の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員はOJT研修期間を設け、丁寧に指導をし、研修終了時には評価を行っている。月一回の法人内勉強会ではKJ法を用いて、気付きを持つ職員の育成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣・芦北地区のブロック会に参加し、同業者間の情報交換や事例検討を行っている。また、研修会にも参加している。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接を何度も行い、その際に入所に関する不安や要望をお聞きしてケアプランに反映している。ケアプランはユニット職員に周知している。また、一か月後にご本人の要望を取り入れてケアプランの見直しを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時、入所契約時にご家族の思いをお聞きしている。連絡先や連絡手段をお尋ねし、こまめに連絡を行っている。要望があれば検討し対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面での安心感を求めらることが多いため、契約時に、二週間ごとに主治医の往診がある事をお伝えしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみは毎日行っているが、他にも職員と一緒に料理やお菓子作りを行ったり、畑の野菜の収穫などを行っている。職員の退社時には、利用者から「気を付けてかえりなさいよ。」との声掛けが自然とあり、顔なじみの関係が出来ている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心として、その方がよりよい生活をするにはどうしたら良いか、面会時や連絡時に一緒に考えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	GH1の方は、ご家族同行により、外泊をされたり、行きつけの美容院や病院に行かれる方が多い。お住まいの地域の民生委員の方が訪問されている。また、行きつけの温泉に職員が同行したり、なじみの商店での買い物を行っている。	どの入所者様も身綺麗で、おしゃれを大切にしている。法人の考え方が、ホーム全体を明るい雰囲気になっている。病院での定期受診や、行きつけの美容院・理容院へは、家族来訪時や、帰宅し外泊された際に利用されており、元気だった頃の馴染みの記憶を引き出す役割を果たしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が日中は共有リビングで過ごされているため、利用間のコミュニケーションはとれている。居室で過ごされることを好まれる方には職員が訪室するようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所されても、同法人内の特養に移られた方が多いので必要に応じて情報の交換が出来る。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畑での野菜作りや調理を楽しみにしている方には参加していただいている。趣味のカラオケや大正琴など楽しまれている利用者もおられる。	昼食後、リビングのソファーに集まった入居者は、ハッキリ・しっかりした声でメロディーに乗り、カラオケで歌い始められました。歌わないけど聴くのも楽しみ・・・と、皆さん笑顔。大正琴を演奏される方も居られ、「書道の達人もおりますよ」と、壁に展示された作品を紹介して下さいました。また、畑の野菜作りや花の手入れ、調理の手伝い等、入居者それぞれが好きな事・したい事を自由にできるようにと、誘導する職員の下支えが見られた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から暮らしの様子や情報を聞き、ケアチェック表やケアプランに反映し、職員一同把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった場合には申し送り、日誌の特記事項、又はメモに記入し全職員に伝わるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント(ケアチェック表)は現状把握ができる現場の担当職員が作成し、それと併せてご本人とご家族の要望をお聞きして、介護計画を作成している。モニタリングを次のプランに反映させている。	まず、介護計画のトップページに「家族の意見・要望」が掲げられ、本人主体の介護の遂行を大切にすることが示されている。ケアチェックは現場担当者が日々の状況と、本人の気持ち、家族の要望を聞き取った記録に併せて、①介護②食事(調理法・介護食)③ノハビリ④医療⑤心理・社会面と、項目を分けた記入があり、一目で分かり易いアセスメントになっている。また、毎月一人ひとりの総合評価とモニタリングを行い、次のケアプランに反映させる仕組みとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあればその都度上司や介護支援専門員に相談し問題点を話し合い、解決できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者それぞれのニーズに対し、出来るだけ柔軟な対応ができるように業務の組み立てを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	国水研や町の行うリハビリ活動への参加がなくなったために地域資源の利用が減っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、主治医に往診を依頼している。他科受診の場合はご家族送迎にて受診を行っている。	高台にあるホームのすぐ下に主治医の診療所があり、2週間に一回の往診を依頼。歯科・眼科などの他科受診の際も、注意事項指示などの協力を得ている。基本的には家族の付き添いによる受診としているが、区域外で遠方の掛かり付け医等への受診は、有料で家族に代わって職員が付き添うこともある。尚、法人内の看護師と連携し、訪問看護の対応実施など、工夫がみられた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バールン交換の必要にご利用者には訪問看護を実施していた。現在は法人内の主任看護師と連絡を取り合いながら必要な看護業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は主治医からの紹介状とグループホームからの情報を提供しており、退院の際は医療機関と連絡を取り合い、主治医にも報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望があれば、出来る範囲を十分に説明し、ご家族、主治医、管理者と協議して今後の方向を検討していく。	重度化対応として、深夜勤務者を3名にするなど試行錯誤を繰り返したが、他の入居者へ豊かな生活を提供することも必要で、医療行為が必要な看取りは、今後の課題としている。現在、介護度が高くなった入居者については、家族と話し合いを持ち、可能な限りの対応説明が行われ、母体法人の特別養護老人ホームへの入所なども支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応時の手順を再確認している。各ユニットの主任や主任看護師が中心となり指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は直近では10月に実施した。避難訓練、通報訓練、保存食の準備、ヘルメット、防災頭巾の設置ができています。また2月には消防署からの点検を受け、避難経路の改善点は実行し、消防団との連携も図っている。	廊下の目立つ場所に、職員用のヘルメットがズラリ並べて設置され、入居者の各居室にもヘルメットと防災頭巾が備えられている。防災でクッション性のある生地で作られた防災頭巾は、「防災頭巾」に比べ明るく機能的な感じ。居室のカーテンも防災加工が施され、延焼防止に配慮されている。事務所には火災報知器、火災通報装置、災害専用電話があり、地域情報が直ぐ分かるラジオやスプリンクラー、保存食の準備と、周到な設備が整えられている。また、避難訓練や防災訓練は消防署、地域消防団と連携が図られている。	避難誘導に関しては、多面的な配慮で訓練を実施されていますが、実際を考えると、避難誘導を行う順番(出入り口から近い順、介護度の高い方から、車椅子の方から、歩ける方から……)などを想定して訓練することも必要かと思われます。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりに合わせた介助や言葉かけを行っており、プライバシーにも配慮している。毎日面会のある方には、ご家族も居室でゆっくり過ごしていただくよう配慮している。	居室で1人、屋食を済まされている入居者が居り、声を掛けると「ゆっくり、自分の好きなようにできるので、これがいい」という返事。一人が好きで、他の皆さんと一緒に楽しい方など多様で、それぞれの人格を尊重し、個別対応が取られている。尚、誕生会やソーメン流し、花見など、外出やイベント時には全員参加できるように声掛けが行われており、家族の一員として尊厳を守る配慮がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	温泉を希望されたり、車での外出は計画を立てて実行している。日々の暮らしの中で外に出たい方、散歩をしたい方には即対応し、職員付き添いで介助している。小さなことでもご本人の希望をお聞きしてその方にあつた介助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散髪時の髪形は美容師さんに伝えて希望の髪形に切ってもらっている。朝の更衣の際に洋服も選んでいただいている。女性の方が多いので、外出の際にメイクをしたところ大変喜ばれ、生活の活性化につながっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行かれる方が3名おられる。ご家族にて送迎していただいたり、グループホームから送迎を行って好みのヘアカットと髪染めをされている。服装も本人の好みの物を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に昼食づくりを月に二回は行っている。他にもケーキ作りやおやつ作りを行い、作る喜びと食べる喜びを感じていただいている。台拭きや茶碗洗い等声掛けすると手伝われるが、定着はしていない。	地方の食習慣を大切に、毎月1日15日は赤飯と赤酒で食膳が飾られる。誕生日にはケーキのほかビールが登場することも…。基本献立は母体法人の特養と同じだが、訪問日は1ユニットにメニューの変更があり、台所では入居者が職員と共に材料を洗い刻む様子がみられた。下拵えに参加した入居者は、テーブル毎に準備された「しゃぶしゃぶ」の鍋を前に、満足気でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によってバランスの良い食事を提供している。10:00、13:30、14:30に水分補給を行っており、摂取量が少ない方にはゼリーや栄養補助液にて栄養補給、水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導を行い、洗面所で口腔ケアを行っている。できる方にはご自分で、介助が必要な方には必要な介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のない方は定時のトイレ誘導を行い、排泄を促している。下着+パッド、リハビリパンツ+パッドなどご本人の状態に合わせて使用している。夜間ポータブルトイレを使用される方は日中は居室から出し、消臭、日光消毒を行っている。	トイレは3人入っても十分な広さ。洋式便器の横には、プラスチック製の小物入れが置かれ、入居者毎の引出には紙おむつやパッドなど、排泄関連の衣類や小物が入れている。トイレの外に出なくても、排泄対応が完了させられる仕組み。1ユニットは自立された方が多く、それぞれ自由な様子だったが、2ユニットでは、入居者の耳元で誘導する様子がみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中の牛乳(ミルクココア・コーヒー牛乳)、午後の水分補給にオリゴ糖入りのミックスジュースを毎日提供している。処方薬が出ている人は併用しながら排便コントロールを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体機能に合わせて安全に入浴できる浴槽を選んでいただいている。何番目に入るか、何時ごろ入るか、ご本人の希望に合わせて出来るだけ対応している。気分的にのらない方は時間をずらして声掛けを行ったり別の日に行っている。	2つのホームの浴室は、夫々に機能が異なった浴槽が備えられ、入居者の身体状況に合わせて浴室が選ばれており、ゆっくり・安全に入浴できることが最優先されている。一番風呂を好む人、2番目が良い人、午前・午後、何時頃に入りたいか、月～土曜日まで自由な選択が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度はご本人に伺って調整している。寝る前にパジャマに更衣していただき、ゆっくり休んでいただく。ラジオを聞きたい方には枕元に設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食品の禁忌については調理場に掲示し、日頃から確認を行っている。また、眠剤や解熱剤の服用、インシュリン自己注射などの介助に関しては十分に様子観察を行い、状態について主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	GHでの行事では役割を持っていただき、料理の得意な方には料理作りに参加されている。また、誕生会では最高齢の方に乾杯のあいさつをしていただいている。カラオケの趣味があった方もおられるので日曜日にはカラオケを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して季節を感じていただくために桜やバラ、コスモス、カカシ見学などを行っている。また、近くの保育所の運動会の見学にも出かけた。天気の良い日は外気浴の散歩を行い、庭の草花、畑、植木を眺めたりして、ゆっくりとした時間を過ごしていただいている。	ホーム周辺には海・山・温泉と、出掛ける先がいっぱいあり、入居者の状態とお天気次第でいつでも出掛けることが可能。昔の思い出話から、急遽温泉へ行くことが決まり、職員も一緒に裸のお付き合いをすることになったり、季節毎に桜・コスモス・バラなどの花見にでかけるなど、外出支援が行われている。尚、お盆・正月には一人でも多く自宅で家族と過ごせるように、多様な外泊支援も実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	GHでの金銭管理は行っていないため、ご利用者は大金は持っておられないが、自己管理内で財布に少額のお金を持っておられる方はおられる。お金を持つことで安心感を持たれ、ひ孫さんへのお小遣いと楽しみにされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れたご家族からの贈り物が届いた時など、お礼の電話をかけ、ご本人にも電話口に出ている。耳の遠い方は伝言を行い、ご本人の意思を伝えている。毎年賀状も職員と一緒に作ったり代筆を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH1)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房完備であるが夏場は西陽が強いいため、窓に大型の寒冷紗を設置している。冬場の夜間は居室の雨戸を閉め、底冷えを緩和している。季節の花をテーブルに飾り季節感を出している。GH1の浴槽は広いため滑り止めを設置し、身体機能が安定している方がGH1浴槽を利用される。	両ユニットのリビングの中央には、家庭用の大型電気コタツの脚を継ぎ足し、椅子・ソファに座って寛げるように改良されている。脚・腰が痛み、立ち屈みが苦痛な入居者にとってソファに座って利用できるコタツは好評。「ここに入ってごらん」と自慢気でした。尚、2つのユニットは平行して並んでおり、その境界の入り口は折り畳み式ガラスの扉。イベント開催時はオープンにし、大広間様に使って活用されている。また、玄関、洗面コーナー、テーブルの中央には小花が飾られ、優しいアクセントとなっており、スタッフの心遣いを垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにこたつを設置してあり、定位置が決まっているので、ご自分の場所でくつろいでおられる。また、テーブルで過ごすのが好きな方もおられ、思い思いの場所で過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビやラジオをご自宅から持参していただいている。また、お孫さん、ひ孫さんからのイラストや写真をご本人と話し合いながら飾っている。全室柄の違うカーテンを使用しているので部屋は明るい雰囲気になっている。	居室のカーテンは、全室異なった色・柄の生地です、居室全体を明るい雰囲気盛り上げている。室内は、使い慣れたソファセットや、夫との思い出のテーブルセット、置き物・写真などが置かれ、その人ならではの部屋作りが出来ている。「ここが落ち着く」と、テレビを見たり新聞を読むなど、静かにほっこりと過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりはないが、壁伝いに歩かれる方のために廊下の飾りは高めに設置している。ご自分の部屋や食堂のテーブルの位置にはプライバシー保護のためにお名前ではなく出身「小宇」名を表示し、ご自分の場所を覚えていただいている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000688		
法人名	社会福祉法人 栄和福祉会		
事業所名	グループホームたのうらそうⅡ		
所在地	葦北郡芦北町大字田浦町822-3		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成25年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年4月にグループホームたのうらそうを開設し、平成22年4月にグループホームⅡを増設しました。現在18名の方が利用されています。特に設置地の田浦地区のご利用者が多いため、顔見知りの方がおられたり、なじみのある風景の中で生活されているため、安心感のある落ち着いた生活を送ってられます。また、面会者や、保育園からの訪問、地元の学校からの実習の受け入れも行っており、地域に開かれた施設であります。特別養護老人ホームに併設しているため、新人職員の研修を十分に行うことができ、職員の資格取得や研修会にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況 (GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念を全職員念頭に置いて、ご利用者様がその人らしく生きがいを持って過ごせるよう支援を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所との交流で踊りの発表会や芋ほりなど来荘の機会がある。また、地元の祭りや運動会を見学に行ったり、季節ごとの花、紅葉、蛍などの見学にも出かけている。また、地元の方が多いため、面会者も多く、顔なじみの方の来荘が多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修を全職員受講している。新人職員も今後受講する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括・地区会長・民生委員・家族代表・利用者代表・職員で構成されており、町からの情報や他施設の取り組み等の情報を交換している。また、利用者の生活や行事を見ていただく機会となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただいている。その際に介護保険に関する疑問点などを質問している。また研修があれば参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会で毎月研修を行っており、内容を回覧で回して職員に周知している。玄関は夜間以外は開錠しており、外に出られる利用者には職員が付き添っている。安全を考慮してのベッド柵使用者2名あり。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会で研修を行っている。日頃から虐待が起こらないように全職員が意識して介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在グループホームに成年後見人制度を利用されている方がおられる。相談や不明な点はすぐに連絡を取り、問題解決している。制度について理解している職員は少ないため勉強する機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、ご家族、またはご本人が納得されるように十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外での特別な場は設けていないが、面会時に積極的にかかわりを持ち、ご要望があればすぐに検討し対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アセスメントメモのサイズを大きくして書きやすくなったが、活用が途絶えてしまったので再度活用に向けて検討している。小さな気付きは直接職員から上司に伝えて業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、全体ミーティング、主任ミーティング、副主任ミーティングを法人内で定期的に行っており、月一回の勉強会も含めて、職員それぞれが自己の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員はOJT研修期間を設け、丁寧に指導をし、研修終了時には評価を行っている。月一回の法人内勉強会ではKJ法を用いて、気付きを持つ職員の育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣・芦北地区のブロック会に参加し、同業者間の情報交換や事例検討を行っている。また、研修会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況 (GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接を何度も行い、その際のアセスメントで入所に関する不安や要望をお聞きしてケアプランに反映している。ケアプランはユニット職員に周知している。また、一か月後の見直しの為に特にかかわりを持って支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時、入所契約時にご家族の思いをお聞きしている。連絡先や連絡手段をお尋ねし、こまめに連絡を行っている。要望があれば検討し対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面での安心感を求めらるることが多いため、契約時に、二週間ごとに主治医の往診がある事をお伝えしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみは毎日行っているが、他にも職員と一緒に料理やお菓子作りを行ったり、畑の野菜の収穫などを行っている。野菜の調理法や漬物の付け方、風習などを聞くと丁寧に教えて下さり、知恵袋としての役割がある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心として、その方がよりよい生活をするにはどうしたら良いか、面会時や連絡時に一緒に考えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	GH2の方はご家族が中心に外出(法事・お祝いごと)などに同行されている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされることを好まれる方には職員が訪室するようにしている。全体的にリビングで過ごされる方が多いので利用者間のコミュニケーションはとれている。顔ぶれが揃わないと、病気なのかと心配される利用者もおられる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況 (GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所されても、同法人内の特養に移られた方が多いので必要に応じて情報の交換が来ている。退所し、入院された方に関しても退院後の行き先について相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ラジオを聞いたり、散歩をすることが好きな方には毎日の日課としてケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から暮らしの様子や情報を聞き、ケアチェック表やケアプランに反映し、職員一同把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった場合には申し送り、日誌の特記事項、又はメモに記入し全職員に伝わるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント(ケアチェック表)は現状把握ができる現場の担当職員が作成し、それと併せてご本人とご家族の要望をお聞きして、介護計画を作成している。モニタリングを次のプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあればその都度上司や介護支援専門員に相談し問題点を話し合い、解決できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者それぞれのニーズに対し、出来るだけ柔軟な対応ができるように業務の組み立てを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況 (GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	国水研や町の行うリハビリ活動への参加がなくなったために地域資源の利用が減っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、主治医に往診を依頼している。他科受診の場合はご家族送迎にて受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バールン交換の必要なお利用者には訪問看護を実施していた。現在は法人内の主任看護師と連絡を取り合いながら必要な看護業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は主治医からの紹介状とグループホームからの情報を提供しており、退院の際は医療機関と連絡を取り合い、主治医にも報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望があれば、出来る範囲を十分に説明し、ご家族、主治医、管理者と協議して今後の方向を検討していく。直近では、胃ろう希望の方がおられたので、医療機関との連携を行い、随時情報提供を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応時の手順を再確認している。各ユニットの主任や主任看護師が中心となり指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は直近では10月に実施した。避難訓練、通報訓練、保存食の準備、ヘルメット、防空頭巾の設置ができています。また2月には消防署からの点検を受け、避難経路の改善点は実行し、消防団との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりに合わせた介助や言葉かけを行っており、プライバシーにも配慮している。面会の際はご家族も居室でゆっくり過ごしていただくよう配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	温泉を希望されたり、車での外出は計画を立てて実行している。日々の暮らしの中で外に出たい方、散歩をしたい方には即対応し、職員付き添いで介助している。小さなことでもご本人の希望をお聞きしてその方にあった介助を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自由に過ごしていただくよう、ご本人のペースに合わせた介助を行っている。ご希望に対してはすぐに対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時の髪形は美容師さんに伝えて希望の髪形に切ってもらっている。朝の更衣の際に洋服も選んでいただいている。女性の方が多く、外出の際にメイクをしたところ大変喜ばれ、生活の活性化につながっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に昼食づくりを月に二回は行っている。他にもケーキ作りやおやつ作りを行い、作る喜びと食べる喜びを感じていただいている。台拭きや茶碗洗い等声掛けすると手伝われるが、定着はしていない。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によってバランスの良い食事を提供している。10:00、13:30、14:30に水分補給を行っており、摂取量が少ない方にはゼリーや栄養補助液にて栄養補給、水分補給を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導を行い、洗面所で口腔ケアを行っている。できる方にはご自分で、介助が必要な方には必要な介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況 (GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のない方は定時のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。下着+パッド、リハビリパンツ+パッドなどご本人の状態に合わせて使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中の牛乳(ミルクココア・コーヒー牛乳)、午後の水分補給にオリゴ糖入りのミックスジュースを毎日提供している。処方薬が出ている人は併用しながら排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体機能に合わせて安全に入浴できる浴槽を選んでいただいている。何番目に入るか、何時ごろ入るか、ご本人の希望に合わせて出来るだけ対応している。気分的にのらない方は時間をずらして声掛けを行ったり別の日に行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度はご本人に伺って調整している。寝る前にパジャマに更衣していただき、ゆっくり休んでいただく。ラジオを聞きたい方には枕元に設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の状態を把握し、変化があれば職員から医師に伝え、受診又は二週間ごとの往診時に適切な治療と指示を仰いでいる。処方薬についても説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	GHでの行事では役割を持っていただき、料理の得意な方は料理作りに参加されている。また、誕生会では最高齢の方に乾杯のあいさつをしていただいている。カラオケの趣味があった方もおられるので日曜日にはカラオケを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して季節を感じていただくために桜やバラ、コスモス、カカシ見学などを行っている。また、近くの保育所の運動会の見学にも出かけた。天気の良い日は外気浴の散歩を行い、庭の草花、畑、植木を眺めたりして、ゆっくりとした時間を過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況 (GH2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	GHでは金銭管理を行っていないが、自己管理内での所持をされている方はおられる。ご家族と外出した際に買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方にはすぐに対応し、受話器の音が聞こえる方には取り次いで直接お話しをしていただいている。耳が遠い方は伝言をお伝えしている。手紙や年賀状を出したい方は職員と一緒に作成したり、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	GH2はトイレや浴室、洗面所の介助が必要な方が多く、一人ずつ介助を行うので混乱はない。待っていただく場合は近くに設置した椅子に腰かけていただく。冷暖房を完備し、夏場はグリーンカーテンを設置。浴槽は中間機械浴のため、歩行不安定な方がGH2の浴槽を利用されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのこたつで過ごされる方が多い。車いすやソファでも入りやすいように改造してあるが、車いすからはソファに座りなおしてくつろいでいただいている。定位置が大体決まっているので、御利用者同士も顔なじみになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものを持参していただいている。安全な配置や自宅の部屋の配置に近づけることで、安心した生活への配慮を行っている。また、全室柄の違うカーテンで、明るい雰囲気を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所間もない方にトイレの場所を覚えていただくために、居室を出たところにトイレの場所を表示し、自力で移動できるように配慮した。廊下には手すりを設置してあるために、歩行される方は安全に移動することができる。		